

これは… 【板碑(いたび)】 といいます。



ある特定の仏さまに対する、
あつい信仰を表した石の塔で、
当時の人々の強い願いが込め
られています。中世(今から約
800~500年前)に、さかんに造
られました。

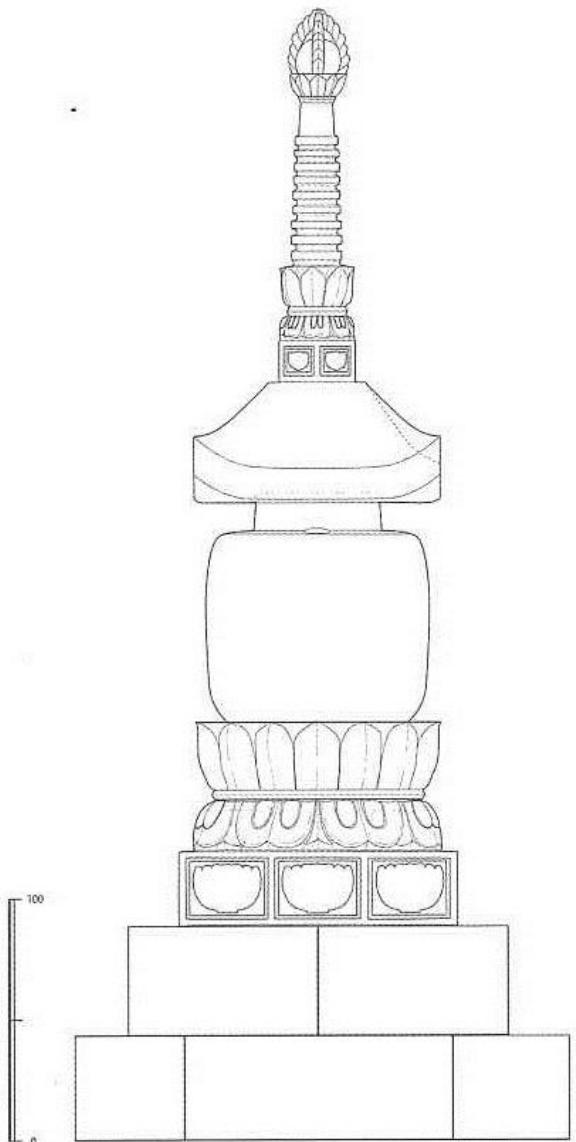
この「塔ノ御堂板碑」は高さ約
180cmととても大きく、真
ん中には阿弥陀如来を表す文
字(キリーケ)が彫られています。

これは【国東塔(くにさきとう)】といいます。



国東半島でしか見られない、
独特の形をした石の塔です。
ハスの花を表した土台の上に、
塔本体が乗っています。
造られた目的はさまざまですが、**塔ノ御堂国東塔**の場合は、
「自分が亡くなつた後、極楽へ行けますように！」と生き
ている内にお願いしたことが、
塔に彫られた文字から分かっ
ています。

これは【カンカン堂国東塔】といいます。



これも国東塔ですが、真ん中の「塔身」(とうしん)という石をはじめ、いくつかの部品が失われています。残された部品から、復元した姿は左の図のように予想されます。

大きさは約465cmにもなり、国東半島でも最大の国東塔の一つであったと考えられます。

お墓として造られた可能性が高く、現在でも、地元の方が大切におまつりして管理されています。

これらの石造物は【小田原氏】がつくりました。



鎌倉時代(今から約700年前)に、このあたりを治めていた**小田原氏**という有力な武士の一族が、一族の繁栄(はんえい)や供養(くよう)を願って、造ったものとされています。当時のあつい信仰を物語っています。